

『平城京木簡三―二条大路木簡一―』

(奈良文化財研究所史料第七五冊) の刊行

平城京跡出土木簡の報告書の三冊目が刊行された。長屋王家木簡を対象とした『平城京木簡一』『同二』に対し、今回刊行の『同三』は二条大路木簡の最初の報告書となる。

一九八八・八九年に出土した二条大路木簡は、二条大路北側のSD五三〇〇(五七mを完掘)・五三一〇(東端五mのみ発掘)、南側のSD五一〇〇(一二〇mを完掘)の三条の溝状土坑の遺物である。今回はSD五三〇〇の西端六m分とSD五三一〇、及びこれらと平行する二条大路北側溝の木簡計一三二七点を収録する。

SD五三〇〇西端は、「中宮職移兵部省卿宅政所」の木簡をはじめ、藤原麻呂の家政機関と関わる内容のものが集中して見つかった部分で、それらは左京二条二坊五坪を藤原麻呂邸と推定する根拠ともなった。市販は左記の通り。

図版B4判一七五頁、カラー口絵二丁、本文A5判三八六頁

セット価 二七三〇〇円(税込み)

吉川弘文館、二〇〇六年一月刊行